

ISSN 1882-9511

THE AICHI-GAKUIN JOURNAL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

愛知学院大学薬学会誌

Volume 11
December 2018

愛知学院大学薬学会
THE AICHI-GAKUIN SOCIETY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES
NAGOYA JAPAN

ISSN 1882-9511

愛知学院大学薬学会誌

第11巻 2018年12月

THE AICHI-GAKUIN JOURNAL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

Volume 11 December 2018

愛知学院大学薬学会
THE AICHI-GAKUIN SOCIETY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES
NAGOYA JAPAN

巻 頭 言

育成と二刀流

医療生命薬学研究所所長 山本浩充

平成 30 年の夏は非常に沢山の出来事が起こった。まさに酷暑という言葉で表されるような連日 40 度を超えるような暑い日が続いた。また、中国地方での土砂崩れを伴う大雨や強風を伴って関西地方をおそった台風、北海道での地震など、多くの自然災害が発生した。被災された方々には、謹んでお見舞い申し上げます。

今年の夏は、スポーツの世界でも色々なニュースがあった。酷暑の中で開催された甲子園では、金足農業の活躍で大きく盛り上がり、ジャカルタで開催されたアジア大会の競泳では池江璃花子選手が 6 個の金メダルを含む 8 個のメダルを獲得した。全米テニスでは、女子では大阪なおみ選手が優勝し、男子では錦織圭選手が準決勝まで進んだ。私も、趣味で週末にテニスをしているが、たいへんな驚きとともに興奮と感動を覚えた。ただ、興奮して下手にまねをすると、体を痛めてしまうので、適度な運動になるように努めたい。また、プロ野球では私が応援している広島東洋カープが 3 年連続のリーグ優勝を果たした。それまでは、最も優勝から遠ざかっていたチームで、15 年連続 B クラスという厳しい時代を経て、今に至る。長期のチーム構成を見据えて選手の育成をしてきた、野村前監督とそれを引き継いだ緒方監督。さらにメジャーリーグから戻ってきた黒田投手や優勝できるチームでプレーがしたいと言って FA で出て行ったものの、出先のチームでは優勝かなわず戻ってきてくれた新井選手が、若手選手にアドバイスを送り、多くの選手が育ち、成績を伸ばした。その結果が実を結び、優勝へと繋がった。現在、薬剤師として求められる基本的な資質 (10 の資質) の一つに、「教育能力：次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する」がある。臨床現場で働かれている卒業生の皆さんのもとでも、愛知学院大学の学生が実務実習をさせて頂いていることと思う。今後とも、大学と共に学生指導にご協力頂き、愛知学院大学から多くの次世代を担う、また次世代のリーダーとなり得る薬剤師が輩出されることを期待している。

野球のことが続くが、海外ではエンジェルスの大谷選手が二刀流で活躍し、センセーショナルを巻き起こした。薬剤師の業務も日々忙しいと思うが、本学には、薬学研究科が設置され、社会人の方にも考慮したカリキュラム編成がなされているので、在学生だけでなく、薬剤師業務をされている卒業生にも、博士 (薬学) を目指して、是非、薬剤師と研究者の二刀流を目指されることを勧めたい。

今回、愛知学院大学薬学会誌は第 11 巻となり、次の 10 年に向け新たな 1 歩を踏み出した。常に新しいことにチャレンジし続けることで、愛知学院大学 薬学部、大学院 薬学研究科、ならびに医療生命薬学研究所が益々発展していくことを祈念している。

— 目 次 —

巻頭言

育成と二刀流

医療生命薬学研究所 山本浩充

総説 1

アスパラギン合成酵素をめぐる研究の現状

-L-アスパラギナーゼ発見から 65 年間の歩み 1

鬼頭敏幸

学会報告

Baicalein regulates FGF21 expression through ROR α -mediated transcriptional activity 16

Kohei Nomura, Takao Hirai, Ken-ichi Nakashima, Makoto Inoue

Berberine stimulates FGF21 expression via activation of AMP-activated protein kinase in brown and beige adipocytes. 18

Yuhei Mitani, Takao Hirai, Michiyo Takagi, Ken-ichi Nakashima, Makoto Inoue

バイカレインによる代謝調節因子 Fibroblast Growth Factor21 の制御には ROR α が関与する 20

野村康平、平居貴生、三谷侑平、胡桃澤香蓮、中島健一、井上 誠

代謝調節因子 FGF21 を制御する天然物の探索 22

胡桃澤香蓮、平居貴生、三谷侑平、高木美千代、野村康平、中島健一、井上 誠

ヒト滑膜線維芽細胞における TRPC1/C4 ヘテロマーチャネルの機能発現と炎症刺激による変化 24

棚橋大介、伊藤友哉、村田優紀、波多野紀行、鈴木裕可、村木由起子、村木克彦

ヒト口腔扁平上皮癌由来細胞 HSC-3 における細胞密度依存性 Ca²⁺オシレーションの解析 25

中村祐子、加藤亜季、鈴木裕可、波多野紀行、村木克彦

糖尿病患者におけるインスリン注入器の使用感と有用性の比較検討 26

宮澤玲帆、加藤文子、岩田実紗、巽 康彰、武藤達也、加藤宏一

銅触媒下で行う 5-スチバノトリアゾールのクロスカップリング反応 28

山田瑞希

川崎病の検査値としての PTX3、Presepsin、NT-proBNP の有用性について 30

大原毅士、鬼頭敏幸

使用制限注意喚起前後の OTC、コデイン感冒薬の使用頻度の変化について 31

牧 大策、鬼頭敏幸、加藤浩太、乾 大樹、塚田健太郎

エルロチニブとトラメチニブの併用投与は cis-Apc/Smad4 マウスの腸管腫瘍形成を抑制する 32

津田都子

スキルス胃癌の腹膜転移に関わる遺伝子の機能解析 35

花井 檀

インドメタシン誘導体の IDO 阻害活性 36

白谷沙羅、小幡 徹、郡司 (水上) 茜、有澤光弘、周東 智、田中基裕

医療生命薬学研究所

平成 30 年度 医療生命薬学研究所組織	38
平成 30 年度 医療生命薬学助成 (プロジェクト提案型研究)	39

平成 29 年度 医療生命薬学助成研究概要

植物内生菌を中心とした真菌エキスライブラリの整備と各種炎症疾患治療薬候補化合物の探索	42
中島健一、富田純子、鈴木裕可、堺 陽子	
シクロデキストリン類を用いた抗悪性腫瘍薬の物性制御と固形製剤化	44
小川法子、小幡 徹、古野忠秀、山本浩充	
脂肪組織における時計遺伝子 Nfil3 の新規生物作用の解明と時計遺伝子を標的とする創薬に向けた基盤研究	46
平居貴生	
神経障害性疼痛マウスにおける骨代謝への影響	48
兒玉大介	
15 族元素試薬を利用した 2-アミノベンゾオキサゾールの簡便合成法の開発	50
村田裕基	
新モデル・コアカリキュラムに対応するために導入した新カリキュラムの有効性の検討	52
波多野紀行、武田良文、茂木眞希雄	

国際交流委員会活動報告

韓国薬学研修引率報告	李 辰竜、松村実生	55
韓国薬学研修報告	高塚菜月	58
	田川佳於里	60
	竹下茅咲	62
	千葉有紀子	64
	野村祐里	66
	渡邊裕菜	68
米国薬学研修引率報告	李 辰竜、梅村雅之	70
米国薬学研修報告	五十川晃太郎、尾添将之、神谷侑未、村上茉奈美、石原歩実、 千葉有紀子	74
	眞鍋 圭、池田佳穂、渡邊あかり、酒井美紅、立松阿子	76
	水野広基、大成 遥、平松梨緒香、鈴木里菜、田川佳於里	78

FD 委員会活動報告

平成 29 年度 薬学部 FD 委員会活動報告	80
卒業研究発表会優秀賞 受賞者一覧	91
講座紹介・業績リスト	93
薬学部医療薬学科 八期生 卒業論文課題一覧	145
評議員会便り	151
投稿規程	167
薬学会会則	169
名誉会員リスト	172

協賛

編集後記